

令和元年度学校自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	(1) 道徳教育の充実 ・高校生として望ましい規範意識、生活習慣を確立する。 ・自己肯定感を高めるとともに、他者に対する思いやりなど、周囲と豊かな人間関係を構築することのできる豊かな心を育む。 (2) キャリア教育の充実 ・社会的問題に関心を持ち、社会の一員であることを自覚させる。 ・探究活動をととして、社会的問題の解決に向けて必要となる能力を育成する。 ・将来の生き方を前提とした進路指導を展開する。 (3) 高い志を有し、学ぶ意欲を向上 ・将来の生き方を考えさせることで主体的に学ぶ姿勢を涵養するとともに、社会問題の解決に向けて必要となる確かな学力を育成する。 ・授業をととして論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力を高める。	今年度の 重点目標	(1) 将来を見越した生活習慣の確立 (2) キャリア教育の充実 (3) 主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上 (4) 情報収集、情報発信の充実 (5) 学校業務改善の取組の推進
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (中間反省9月)			
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
将来を見越した生活習慣の確立	①社会や人とのつながりを意識した生活習慣を身につける	【生活支援】 ・全般的に挨拶はできている。特に、野球部の立ち止まっでの挨拶は、外部からも好評である。 ・授業や集会での聴く姿勢は良い。講演を受けて自分の生活や行動につなげる姿勢に乏しい。 ・自分の置かれている状況や立場を考えて行動できない場面がある。	・自然に自分から好感の持てる挨拶ができる。 ・授業や集会などで顔を上げて、きちんと話を聴くことができるとともに、積極的に自ら発言をすることができる。 ・TPOを意識した行動をとることができる。 ☆日常的な生徒観察により評価する。 ☆は評価の方法(以下同じ)	・積極的、意欲的な行動や姿勢をとった生徒を褒めて育てる。 ・挨拶することの意味をステージやホームで繰り返し話すことで伝える。 ・授業も含め日常的に発言できるように、生徒が発表する機会を数多く設定する。 ・次なるステップが自分で明確にできるよう、メモや記録化で指導する。(生徒手帳の復活)	・87.1%(前年比6.2減)の生徒が基本的な生活習慣について適切な指導がなされていると捉えている。 ・生活規律を守らない生徒への指導が充分と捉えているのは78.7(前年比7.6減)で、不満が少し増えてきている。 ・発表機会は確実に増えている。 ・発表会で、指導助言者への態度などTPOを意識できる段階までには至っていない。	C	C	・ルールやマナー、礼儀作法について、教務室の出入り、授業の開始・終了の挨拶、清掃など日常的な部分での指導を継続する。 ・生徒が、公平な指導が行われていると感じられるよう、教職員間の共通理解を進める。また、自動販売機の使用やケータイ・スマホの持ち込みルールなど生徒が自分たちで確認できる機会を設ける。 ・次なるステップが自分で明確化できるよう、メモや記録化で指導する。⇒生徒手帳の復活検討
	②講演会・生徒会活動等を通して人としての生き方を学ぶ	【生活支援】 ・生徒会の行事、委員会等各種活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。 【S1】 高校3年間で何を学び、将来どうやって社会に貢献していくかという明確なビジョンを持っている生徒は少ない。	・多くの生徒が生徒会の行事、委員会等各種活動に積極的に取り組んでいる。 ☆行事反省、委員会の振り返り等で評価する。	・生徒会の行事、委員会等各種活動を通して、生徒が責任を持って主体的に取り組むことに喜びや達成感を持てるよう寄り添いながら指導する。	・生徒会活動への関心度は80.0%(前年比で4.0減)。S3生はある程度の達成感を持てたが、S2生の関心度が大きく後退(前年度比で16.2減)している。	C		・後期から生徒会の中心はS2へと移るので、活動を通して自己肯定感を高めていく。そのためにも、各行事や活動の振り返りをきちんと行う。
			・将来学びたいことが明確になり、そのために今、何をすべきか判断し、行動することができる。 ☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する。	・様々な講演会や諸活動に意図的に取り組みせ、感想や気づきを継続的に記録し、振り返りながら、自らの生き方について考えさせる。	・講演会や西高祭などの行事で振り返りシートを活用し、自らの生き方や生活を振り返り今後の高校生活に生かそうとしている。 ・メモや記録が不十分で積み上げになっていない生徒もいる。	C		・こまめにチェックし、経験を丁寧に振り返る習慣を身につけさせる。
キャリア教育の充実	①チャレンジグループ活動の情報収集～整理・分析～発信のスパイラルを確立し、個人研究を充実させる	【キャリア支援】 ・CHALLENGE NOTEを活用し、活動を記録している。 ・成果を発表する機会が増え、生徒同士の評価や研究の深化につながっている。S1・S2の生徒は、発表を聴いて学んだことを自らの研究活動に活かしている。 ・大学訪問や講演会等を通して、大学入試制度など進路への理解が深まっている。 ・合格者や卒業生の体験談を聴き、進路意識やチャレンジグループ活動に対するモチベーションが高まっている。	・ノートに内容や感想を主体的に記録する習慣が身についている。 ・大学・学部、職業に関する理解を深め、テーマ設定や研究活動が自らの進路につながっている。 ・フィールドワークなどの研究成果をまとめ、情報機器を活用して校内の発表に限らず校外でプレゼンテーションを行っている。 ☆S3のチャレンジグループ活動のアンケートにおいて、「積極的に取り組めたか」、「講義や施設見学により仕事や施設の役割などの理解を深めることができたか」、「さらに学びたい、知りたいなどの知的好奇心が深まった」、「進路目標が決まったり、目標に対する情熱が高まったなど、影響を与えた」の各質問項目いずれにおいても、6割以上の生徒が「とても思う」と回答している。	・テーマと進路がつながる指導をするために、大学の学部や研究に関する情報を提供する。 ・各ステージと連携して講演会などの企画の調整を図り、円滑な運営と目的の遂行に努める。 ・大学での学びとチャレンジグループ活動について、卒業生の話を聴く機会を設定する。	・外部講師を招き、生徒・保護者対象の進路講演会を開いた。情報提供を行い、進路意識の向上を図った。 ・鳥取大学、島根大学の大学訪問に多くの生徒が参加した。また、卒業生の話を聴く機会を設定した。大学での学びやチャレンジグループ活動の意義について考える良い機会となった。しかし、S3生については、卒業生の話を聴く機会が3年間一度もなかった。 ・S3は成果発表を終え、ほとんどの生徒が個人レポートを提出した。フィールドワークやプレゼンテーションなど積極的に活動する生徒が多く見られた。しかし、テーマ設定する際、十分に練られていない、またテーマが進路につながっていない生徒もいた。	B	C	・探究活動が進路につながる学習の場であることを理解させる。フィールドワークや進路指導、個人面談などにより探究活動のテーマの重要性を認識させ、興味・関心、進路につながるテーマ設定をするよう指導する。 ・研究や発表の場に関する情報を発信し、生徒一人ひとりが積極的に校外でも研究を深めていく機会を増やすよう指導する。
		【S1(バイオニアホーム含む)】 ・チャレンジグループ活動に積極的に取り組みたいと考えている生徒は多い。	・自らの明確な意思でチャレンジグループを決定し、個人研究テーマを設定している。 ☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する。	・CHALLENGE NOTEを有効活用し、様々な体験を積み上げていく。	・フィールドワークイン鳥取やオープンキャンパス等に参加し、社会の仕組みや課題、自らの進路について考える生徒が増えてきた。	C		・チャレンジノートの記録をチェックし、記録を積み上げていくことの大切さを理解させ、記録の質を高める。
		【S2(バイオニアホーム含む)】 ・S1次に決定した研究テーマをもとに、情報の収集、分析方法について検討し、計画的に探究活動を進めようとしている。	・探究活動をととして、研究テーマに係る問題意識を育み、その解決に向けて情報収集、整理・分析し、多角的に方策を考えている。 ☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する	・S3の発表、講演会、施設・企業等の訪問の機会をとらえ、社会に対する視野を広げるとともに、個別面談により、進捗状況確認や個別指導を適宜行う。	・S3発表、チャレンジグループ活動(企業訪問、講話、先輩に聞く)、鳥取西ホスターセッション発表会等の取組により、視野が広がり、問題意識を持つ生徒が増えつつある。 ・個人研究に対し、各グループで個別面談を進め、改善・修正により探究活動を進めようとしている。	C		・フィールドワークイン関西を軸として、社会に対する視野を広げ、社会に対する興味関心を高めていく。 ・各Gでの個別面談を継続して行い、探究活動を深めていく。
		【S3(バイオニアホーム含む)】 ・S2次早々に決定したテーマに沿ってフィールドワーク等を行い、レポート作成に取り組まかっている。 ・進路と関連させて探究を深めている。 ・S2次の西京高校との交流によって、視野が広がり問題意識が高まっ	・充実した内容の発表や報告書を完成させ、活動終了後は、希望の進路実現へと繋げている。 ・チャレンジグループ活動を通して、自らの進路目標を明確にし、将来、社会に貢献していく態度を身につけている。	・適宜個人面談を実施し、活動の進捗状況を把握するとともに、助言を与える。 ・生徒が「社会貢献」という大きな目標を見失わないよう、生徒の表情や行動に目を向け、声を掛けるタ	・計画どおりに研究を進め全員発表することが出来た。様々な発表を聴くことで自分の探究活動を振り返ることが出来た。ほとんどの生徒が8月中にレポート提出することが出来た。	B		・校内での調べ学習的な発表で終わった生徒に、今後の進路では外部の現場訪問など積極的に取り組むことが重要であることを引き続き伝えていく。
	②地域社会の問題に関心を持つとともに、アウトプット能力を向上させる	【S1】 ・ボランティア活動の目的を理解して、自ら進んで行動していこうとする姿は多い。	・ボランティア活動に全員が一回は参加し、社会の中での自分のあり方を考え、社会の課題に気づき、解決策を考えようとする姿がみられる。 ☆ボランティア発表会に向けた作品づくりで評価する。	・ガイダンスでボランティアの取り組みを説明し、さらにボランティア活動参加前の事前指導を行い、学び・気づき・課題・解決策などを記録し、ホームで発表する。	・現在約90名が参加(参加予定)しており、活動を通して気づいたこと、考えたことを記録している。複数回参加する生徒が約20名いる。 ・参加(申し込み)していない生徒も約30名いる。	C		・2月にホームでの発表を予定している。 ・まだ参加していない生徒に対して、声かけを行い、目的意識をもって参加させる。
	①深い学びへのプロセスやICTを取り入れた授業改善を行う	【学習企画】 ・授業を大切にする生徒の意識が高まり、教員の設定した目標に主体的に取り組む土壌ができてつある。 ・学習習慣の定着は生徒による個人差が大きい。 S1: 家庭学習時間2時間以上は前期継続的に70%を超えたが、後期 考査時期を除いて未達成(通年平均79%) S2: 同上2時間半以上達成は考査時期のみ(通年平均55%) S3: 同上5時間以上37%(ただし、7月以降) いずれも目標は達成していないが、数値は一昨年度より向上している。 ・iPadなどICT機器を取り入れた授業も増えてきてはいるが、効果的な活用について今後も研究を必要としている。またICTを活用する環境整備にも工夫改善が必要である。	・生徒自身が考え、表現する機会をさらに増やすなど生徒の自発性、積極性を引き出す授業を行い、生徒のアウトプットの機会を増やす。 ・授業に主体的に参加するために、実のある主体的な家庭学習を行う時間が確保できている。 ・客観的な思考及び判断ができる。 ☆生徒授業アンケート: 1～5の各項目について、前年比10%アップまたは80%以上。 家庭学習時間の目標値 S1: 2時間以上の生徒が継続して70%以上。 S2: 2時間半以上の生徒が継続して70%以上。 S3: 県総体後5時間以上の生徒が50%以上。 ☆生活の軌跡の記録で評価する。	・校内研究授業を実施し、授業後には教員全員参加の研究協議を行って工夫した点や成果についての情報共有を行い、得たものを授業で活用し、生徒に還元していく。 ・考査の問題も「思考」「判断」「表現(論述)」を意識した出題につとめる。 ・授業づくりのヒントとなるように、ICTを使った授業実践の動画等のデータを蓄積していく。 ・生活の軌跡を利用して面談を実施する。 ・具体的な生活時間を提示する。	・少人数クラスでは話し合って考える環境はできている。それが確実に「深い学び」につながるような授業展開を更に考える必要がある。 ・週末課題の解答欄や授業のワークシートをとりあえず埋めるといったレベルにとどまっている生徒もあり、自分で考え、自分なりの考えに到達する過程を意識した教材や授業の工夫も必要である。 ・家庭学習時間調査の数値目標については、全S8とも、8月によく目標人数に達した。(それまでは目標に遠く及ばなかった)今後の動向に注目したい。但し、S1、S2に関してはかけている時間と実際の学習内容との関係をもう少し詳しく見ていく必要がある。 ・授業アンケートについては9月25日前期分実施予定。	D	D	・2学期も授業研究会を継続して開催し、また他校での公開授業に積極的に参加するなどして多くの実践から授業改善に向けての何かヒントを得る機会を増やす。 ・授業アンケートの質問項目を参考に、生徒に日々の予習復習、週末課題の取組状況を振り返る場面をもつける。個々の生徒の家庭での学習状況や成績を把握し、個別対応で授業担当でも面接を実施する。 ・生活の軌跡を学習時間以外も把握できるよう工夫する。

評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価		改善方策
主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上	②高い志の実現に向け、予習・授業・復習のサイクルを確立する	【S1】 学力を高めたいという思いはあり、与えられた課題には積極的に取り組めるが、各自が工夫した学習にはなっていない。	・常に向上心を持ち、家庭学習を定着させ、定期考査や模試を節目に、PDCAサイクルを意識した実践をする。 ☆【学習企画】に同じ	・担任、教科担当者が面談等の機会をとらえながら、丁寧に個別指導を行う。	・4月(34%)、5月(26%)、6月(35%)、7月(36%)、8月(87%)。8月を除き、学習時間は目標を達成する取組ができていない。 ・考査前だけの取り組みになっている生徒が多い。 ・課題の提出率は高いが、不備や形だけのものになっており、再提出を求められる生徒も多い。	D	C	・学習時間は今後も継続していけるように、声かけをしていく。 ・課題点検を丁寧にを行い、提出率を高めると共に、質(取組内容)の大切さを理解させる。
		【S2】 ・多くの生徒の学習習慣は定着しつつあり、与えられた課題に対しては取組むことができているが、自ら計画を立て、工夫して学習に取組む生徒は少ない。	・進路目標を明確に持ち、定期考査や模試を節目に、PDCAサイクルを意識した実践をする。 ☆【学習企画】に同じ	・面談、保護者懇談等の機会をとらえ、現状分析と目標設定を行い、自らの課題に対して前向きに取り組めるように個別指導を行う。	・4月(33%)、5月(29%)、6月(34%)、7月(25%)、8月(80%)。8月を除き、学習時間は目標を達成する取組ができていない。 ・保護者懇談に生活習慣のルーブリック表を作成し、自らの生活について振り返ることができた。 ・主体的に学習に取り組める生徒はまだ少ない。			・ルーブリック表や考査・模試の振り返りシートに継続的に取り組み、学習習慣や生活習慣の改善に取り組む。 ・考査や行事に対して計画を立てて実行する姿勢を身につけさせる。
		【S3】 ・受験を控え、希望の進路を実現するために向学心が高まってきている。 ・休憩時間や放課後等に生徒同士で教え合っている姿が頻繁に見られる。	・各自がスケジュール管理でき、隙間時間の学習や家庭学習を充実させている。 ・定期考査や模試を節目に、PDCAサイクルのCAを実践し、本物の学力を定着させる。 ☆【学習企画】に同じ	・模試の結果をもとに、各自が自分の現状を分析し、勉強の仕方を工夫できるよう、適宜個別指導を行う。 ・SHRの時間を大切にし、自己実現のためには「セルフマネジメント」出来ることが重要であると伝え、助言していく。	・6月(19%)、7月(6%)、8月(58%)。8月を除き、学習時間は目標を達成する取組ができていない。 ・隙間時間の利用などスケジュール管理は出来てきている。 ・家庭学習の教科別では「英語」が最も多い。日ごろから「英語」は毎日することを指導してきているので、学習への意識が高まってきていることがわかる。			・模試の結果にあわせて、各自で復習の仕方を工夫するよう、引き続き指導していく。
	③校外模試成績を含めた学力を向上させる	【キャリア支援】 ・各教科の模試分析をもとにS1・S2拡大ステージ会を行い、課題・対策の共有を図っている。 ・模試に向けて、各教科で課題やテスト等に計画的に取り組んでおり、生徒の目的意識や意欲は徐々に高まってきている。 ・受験後、自己採点や見直しなどの指導をし、「受験→見直し・自己分析→次回への目標設定と対策」のサイクルを習慣化するよう取組んでいる。 ・長期休業中課外、放課後センター演習、2次課外により学力向上を図っている。	・全教員が生徒の学力を把握し、課題や取組み等の情報を共有し、全体指導や個別指導など必要な対策を講じる。 ・模試の取組みについても、PDCAサイクルが確立されている。 ☆S1: 7月進研模試の結果に基づき実態に応じた目標値を設定。 ☆S2: 1月進研模試の3教科の平均偏差値が48以上。 ☆S3: センター試験540以上(900点満点)の生徒が30名以上。 センター試験を利用した国公立大現役合格者(推薦Ⅱ、AOⅡ、一般)30名以上。	・模試の目的と意義を生徒に理解させ、目標をもって取組ませる。 ・大学入試制度の変更に備え、情報収集に努めるとともに、拡大ステージ会の在り方を検討し内容の充実を図る。	・各ステージで拡大ステージ会を開き、現状と課題、今後の指導について共有することができた。 ・S1目標:SS48に設定。進路学習により、自分の進路について考えるよう指導している。 ・S2目標:変更なし。計画表を記入させ、生活スタイルの見直しをしている。進路学習により、進路意識の高揚を図っている。 ・S3目標:変更なし。放課後学習への参加者も多い。受験に向け、高め合える集団になってきている。	C	C	【S1】 ・学習習慣の確立に向け、基本的な生活習慣についてより指導していく。 ・生徒の状況をステージで共有し、声かけや面談を行いながら学ぶ集団の雰囲気づくりを行っている。 ・考査や模試の振り返りシートを活用し、目標を設定させ、学ぶ意欲を高める。 ・階段の掲示物ボード等も活用し、学習に向かう環境づくりを行う。 【S2】 ・計画的に学習に取り組ませる。生活スタイルの見直しにより、学習時間の確保に努めさせる。 ・進路学習を行い、生徒の進路目標を明確にし、日々の学習や模試に対する意識を高めていく。 ・新入試に対しての情報収集を継続して行い、生徒への情報発信を行っていく。
		【バイオニアホーム(他ホームに広げることを含む)】 【S1】 ・学習意欲は高く、課題に対して熱心に取り組み、期限を守って提出できる生徒が多い。 ・学習習慣と学力とのバランスが取れている生徒が多い。	【S1】 ・常に向上心を持ち、家庭学習を定着させ、定期考査や模試を節目に、PDCAサイクルを意識した実践をする。 ☆【キャリア支援】に同じ	【S1】 ・「生活の軌跡」を有効活用し、個々の生徒の取組みに対して振り返りを促し、改善を図る。 ・拡大ステージ会により生徒の状況や問題点の共通理解を図る。 ・過去問などにより模試対策を行う。	・学習時間、課題提出状況、ボランティア参加状況の全てにおいてステージをリードしている。 ・岡山大学オープンキャンパスなどに参加したことが高い目標を持った生徒も多い。			・バイオニアホームとして経験したことを他ホームに発信する機会を設定したい。 ・面談等により進路目標を明確にし、模試に向けた意識を高めていく。
		【S2】 ・勉強と部活動の両立に努力しているが、生徒会活動に積極的に取組んでいる生徒は少ない。	【S2】 ・自己管理を徹底し、先を見越して計画的にものごとを進め、学習面、生活面ともに、学校やステージのリーダーとして集団を引っ張っている。 ☆【キャリア支援】に同じ	【S2】 ・各自が目指す姿を設定し、バイオニアホーム独自の見学や体験をとおして視野を広げ、自分を高めるための具体的な工夫をする。	・生徒会活動に積極的に参加し、リーダーとして引っ張っているとする姿が見られるようになってきた。 ・様々な活動に対して消極的な姿も一部に見られる。			・西京高校との交流や英字新聞活用などの取組を他ステージや他ホームに対して発信していく。 ・行事や活動への取組時に声掛けや背中を押す指導を行っていく。
情報収集、情報発信の充実	学校の魅力、生徒の活動状況を積極的に情報発信する	【S3】 ・各自がバイオニアとしての自覚を持ち、主体的に学習や学校行事、部活動に取り組み、人間的成長が見られる生徒が増えている。 ・学習習慣も定着してきており、放課後に残って学習したり、他ホームの生徒とも教え合いが出来ている。	【S3】 ・将来への展望を持ち、自分を高めることに妥協を許さず鍛錬続ける心の習慣を身につける。 ☆【キャリア支援】に同じ	【S3】 ・SHRなどで具体的に話をする中で、バイオニア性について常に意識させ、行動に繋げさせる。	・西高祭ではリーダーとして積極的に考え動く姿が見られた。 ・学習会でも各自が集中して取り組み「受験は団体戦」という雰囲気をつくっている。	A	B	・引き続きバイオニアホームの一員としての自覚ある行動を意識するよう指導する。
		【総務】 ＜ホームページの運用＞ ・更新件数は大幅に増加している。 (更新件数:平成29年度194件→平成30年度675件) ・アクセス数は前年度より減っている。 (平成29年度約297,400件→平成30年度約233,213件)	＜ホームページの運用＞ ・生徒の活動や必要な情報が適宜、掲載されている。 ・担当した行事、部活動の様子を教職員が速やかに掲載している。 ・学校の情報がわかりやすく伝わるようにする。 ☆ホームページ更新件数:250件(前年度並みの指標とする)	＜ホームページの運用＞ ・内容を考慮し、保護者等が求める情報を載せるようにする。 ・担当した学校行事、部活動の様子を速やかに掲載できるように、適宜、担当教職員・部活動顧問への掲示呼びかけを行う。	＜ホームページの運用＞ ・更新件数 426件 (9/11現在) ・アクセス数 166,271件 (9/11現在) ・保護者アンケートでは「よく見ている」が50%を超え年々増加している。			＜ホームページ＞ ・教職員への掲載呼びかけを引き続きを行う(特定少数者のみの掲載にならないように留意)。
		＜季刊倉西・倉吉西高通信の刊行＞ ・時期をずらして内容を考慮し、年4回ずつ刊行している。	＜季刊倉西・倉吉西高通信の刊行＞ ・保護者に学校並びにPTAの活動や方針等を適宜、伝える。 ☆季刊倉西4回、倉吉西高通信4回刊行。	＜季刊倉西・倉吉西高通信の刊行＞ ・年間計画を立て、季刊倉西では学校から保護者宛のメッセージを、倉吉西高通信ではPTA活動の紹介と参加呼びかけを主とした紙面とする。 ・季刊倉西を見やすい印刷にし、確実に保護者に届くようにする。	＜季刊倉西・倉吉西高通信の刊行＞ ・季刊倉西: 春号(5月)・夏号(9月)発行、秋号(11月)・冬号(2月)発行予定 ・西高通信: 178号発行、179号(12月発行予定)			＜季刊倉西・倉吉西高通信＞ ・季刊倉西:計画どおりに発行する。 ・西高通信:引き続きPTA広報部会で内容・構成を検討する。
		＜ミッタシステムの運用＞ ・保護者の登録率は97%。 (登録切れの保護者への再登録、未登録の保護者への呼びかけを年3回行った。)	＜ミッタシステムの運用＞ ・漏れなく緊急連絡を行うことができる。 ☆保護者の登録:100%。	＜ミッタシステムの運用＞ ・未登録の保護者への登録呼びかけを行う(4月・7月・12月の3回)。	＜ミッタシステムの運用＞ ・7月に登録呼びかけを実施 ・登録率 94.2% (9/11現在) ・未登録・配信不能家庭(S1:7 S2:6 S3:7)			＜ミッタシステム＞ ・12月に再度、登録を呼びかける。 ・連絡など情報をこまめに配信する。 ・未登録者、配信不能家庭に個別に確認する。
		＜中学生体験入学・中学校での高校説明会＞ ・体験入学では、2日間で284名が参加し、99%が「参考になった」と回答。 ・各中学校で3年生への説明会を実施した。(6月)	＜中学生体験入学・中学校での説明会＞ ・中学生や保護者が倉吉西高の情報を持っている。 ☆中学生体験入学の参加者アンケートの満足度:90%以上。	＜中学生体験入学・中学校での説明会＞ ・チャレンジグループ活動の発表を充実させ、倉吉西高の魅力が伝わるようにする。 ・体験入学は保護者にも参加を呼びかける。	＜中学生体験入学・中学校での説明会＞ ・体験入学:参加生徒348名(保護者16名)、99%が「満足」と回答 ・説明会:各中学校で3年生への説明会を開催(6月)			＜体験入学・説明会＞ ・体験入学:目標を達成。次年度も同様に開催する。
		・目的が重複する行事やその準備等が、勤務時間の長大化につながっている。 ・休養日などを設定した各部の活動方針が徹底されていない。	・優先順位の低いものについて1つ以上の業務削減。 ・年間の時間外業務を平成29年度比で20%削減。 ・休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底。 ・部活動に係る時間外業務80時間以上勤務者の解消。	・優先順位の低い行事の整理・統合を進める。 ・管理職員が各部の休養日、活動時間を把握し、遵守を働きかける。 ・顧問体制の柔軟な運用を認める。	・西高祭日程見直し:熱中症搬送者0人 ・時間外業務削減率:28.7% ・部活動活動方針:計画提出率:100% ・部活動に係る時間外業務80時間以上:3人			・それぞれ継続的に取組む。